令和元年度　東大和市立第五中学校　　授業改善推進プラン　　教科名　数学科　授業担当者　堀・本橋・星野・天田

| 数学科における指導の重点（身に付けさせたい力）　※学習指導要領に照らし合わせて |
|---|
| 【数学的な見方や考え方】<br>思考・判断・表現力等の習得 |

| | 生徒の学力の状況（課題） | 授業における具体的な改善策 | 手だての実施時期 | 成果検証（２月） |
|---|---|---|---|---|
| 第１学年 | ・単元テストで、「数学的な見方・考え方」に関する問題の正答率が非常に低い。<br>・文章を理解し、立式する能力が備わっていない。 | ・グループ活動や教え合いを取り入れ、主体的に取り組むことで、表現力の向上につなげていく。また、応用問題に挑戦する機会を多くしていくことで自ら考え、立式する力を高める。 | ・適宜 | ・教え合い学習を取り入れることで、生徒が主体的に学習することができた。また、他に教えることで自分なりに分かりやすく表現する力を養うことができた。 |
| 第２学年 | ・都の学力調査では都平均を上回ったが「数学的な見方・考え方」では都平均を下回った。<br>・単元テストや総括単元テストにおいて、上位層の割合が少なくなっている。 | ・応用問題に対して、グループ活動や教え合いを取り入れ主体的に取り組ませていく。<br>・習熟度別少人数授業の充実を図り、理解度に応じた課題に取り組ませていくことで、上位層を増やしていく。 | ・適宜<br>・通年 | ・習熟度別少人数授業により、学力の底上げを図ることができた。また、グループ活動や教え合いを取り入れることで主体的に学習に取り組んでいた。 |
| 第３学年 | ・「全国学力・学習状況調査」では数学的な技能がわずかに全国平均を下回った。<br>・単元テストや総括単元テストにおいて、文章読解力の乏しさが見られ、そのために「数学的な見方・考え方」に関する問題の正答率が低くなっている。 | ・授業中に計算などの小テストを実施するとともに、技能を高めるための宿題を日頃から出して、繰り返しを増やす。<br>・演習問題や応用問題に取り組む時間を多く設け、自ら読み解き、立式する力を身に付ける。教え合い学習を取り入れ、生徒が主体的に取り組む力を育成する。 | ・通年<br>・適宜 | ・習熟度別授業の利点を生かして基礎クラスでは、計算力や作図などの向上に成果があった。<br>また、標準・発展クラスでは、関数分野および平面図形分野に集中的に取り組み、読解力や処理の能力に向上が見られた。 |

| ■主体的・対話的で深い学びに関連して | ■小中一貫教育共通プログラムに関連して |
|---|---|
| １年　自分の考えを他者に伝える機会を増やす。<br>２年　課題提示の工夫、グループ学習の充実<br>３年　難易度の高い問題への振り返りを学びあいの機会として行う。 | １年　ふり返り等、終末の工夫を行う。<br>２年　ふり返り等、終末の工夫を行う。<br>３年　ふり返り等、終末の工夫を行う。 |